2008-09年度
R.1. テーマ

夢をかたちに

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

To Club Presidents and Secretaries
R.I.District 2550 (Tochigi.Japan)

ガバナー 羽 石 光 臣

2008-09年度 ガバナーの目標 「子供たちに夢を」その夢をかたちに

「よるのふくろう」
野 村 悠 太（宇都宮陽東小）
文星芸大子ども芸術祭・奨励賞

今月のガバナーズ・コラム

ロータリーとは P2

「借りたら返そう」

生きているということは　誰かに借りをつくること
生きているということは　その借りを返してゆくこと
誰かに借りたら誰かに返そう　誰かにそうして貰ったように
誰かにそうしてあげよう
（永六輔）

12月のロータリーレート
1米ドル ＝ 96円

目　次

- P2 羽石ガバナーメッセージ
- P3 (財)ロータリー米山記念奨学会について
- P4 家族月間に因んで
- P5 第 32回 RYLAセミナー報告
- P6 平成 20年度ロータリー米山記念奨学会 北関東学友会栃木支部総会報告
- P7 第 6グループ ＩＭ開催報告書
- P8 第 36回ローターアクト年次大会報告
- P10 2008夏期交換留学生のエッセイ
- P13 公式訪問だより
- P16 新入会員紹介・訃報
- P17 文庫通信、通信欄
- P18 会員増強・出席報告

国際ロータリー第 2550地区　ガバナー事務所
〒 320-0066　栃木県宇都宮市駒生 1-1-6　財団法人　栃木県青年会館　コンセーレ 4階
TEL 028-611-3808　FAX 028-611-3809
http://www.rid2550.jp　E-mail ： d2550@silk.ocn.ne.jp

06
2008-12

ロータリーとは

国際ロータリー第2550地区
2008-2009年度ガバナー
羽石光臣（宇都宮東RC）

ある朝、一人の老人が海辺を散歩していました。海辺にやってきたのは、静かにじっくりと考えるためでした。ずっと先に、一人の幼い少女が踊っているような姿が見えました。老人はその少女が何をしているのか気になり、そちらのほうに向かって歩いていきました。さらに近づいていくと、どうやら少女は踊っているのではなく、なんと、ヒトデを一匹ずつ拾い上げては、海の中に放り投げていたのです。老人は、少女に向かって尋ねました。「何をしているのかね」と。少女は答えました。「ヒトデを海に返してあげているのよ。潮が引いてきたから、このままにしておいたら、死んでしまうわ」老人が浜辺を見渡すと、そこはどこもかしこも一面ヒトデで覆われていました。「しかし、ヒトデは数え切れないほどいるし、浜辺は何キロもある。おまけに潮はものすごい勢いで引いている。君一人で一体何ができるというのかね。無駄なことだとは思わんか。ヒトデを助けることは無理なのだよ」老人はそう言い聞かせました。

しかし、老人が話している間も、少女は一匹ずつヒトデを拾っては投げ入れ、拾っては投げ入れるという動作を繰り返していました。老人が話し終えると、少女はしゃんと背筋を伸ばすと、もう一匹のヒトデを海に投げ入れ、老人に向かって微笑みながらこう言ったのです。「ほら、私はあのヒトデを助けることができたわ」老人は、その少女が大切なことを自分に教えてくれたのだと気づきました。（国際協議会閉会の辞にて、D.K.Lee）

「ロータリーの友」に 2001年 11月 2760地区大会記念講演で話された、「一隅を照らす」と言う題でロータリアンの佐藤千寿さんのお話が載っております。もともとロータリークラブというものは、仲間同士助け合おう、自分の町を住み良くしよう、という身近な問題から誕生したもので、身を捨てて人類を救済しようなどという聖人の集まりではありません。「脚下照顧」という四文字が、よくお寺の玄関などに書かれています。このごろは、はきものを脱ぎ散らかしたまま上がる人が多いので、そういう無作法を戒める警告でしょう。しかし、これは人生百般に通じる教訓で、まず自分の脚下を照らして良く見、これをしっかり固めて整えてから先に進まなければ危険だということです。ロータリーだって全く同じでしょう。まず、ロータリアン自身、そしてクラブ、それらの地域、次に世界という順序です。

ビチャイ・ラタクル RI会長の「慈愛の種をまきましょう」の解説に、第 1に自分のクラブに、第 2に自分の職場に、第 3に地域社会に、第 4に世界にとあります。

国家の品格（藤原正彦）にある「四つの愛」は、「家族愛」、それから「郷土愛」、それから「祖国愛」です。この三つがしっかり固まった後で、最後に「人類愛」です。

ロータリーは「平和な世界」を願っています。順番を間違えてはいけません。

二宮尊徳は「至誠」「勤労」「分度」「推譲」の報徳思想の中で推譲は、まず自分へ、次に家族へ、それから隣家へ、地域社会に、そして国家へ差し出せと説かれております。

中江藤樹は、親に対する孝を隣家に対する孝に広げ、更に地域社会に対する孝に広げ、更に国家に対する孝に広げて行こうと言う教えです。自身実践するために、故郷に戻ってお母さんに親孝行をしながら村民に私塾を開き孝を説きました。ロータリーは「平和な世界」を願っています。順番も大切なことであると思います。

（財）ロータリー米山記念奨学会について

元RI理事
(財)ロータリー米山記念奨学会理事長
板 橋 敏 雄（足利東 RC）

（財）ロータリー米山記念奨学会について、今回は昔のお話をしましょう。

1956年の二つの地区大会（当時は東京と大坂の2地区）の会長代理は、1954-55年度のRI会長、「四つのテスト」のハーバート・テーラー氏でした。第60地区の大会の挨拶で米山事業に触れ、東京RCの功績を称えて感謝の意を表されました。

私は「四つのテスト」の創案者として、皆様が、これを実際に使われた色々の業績に対して、此処に感謝の意を表したいと思います。出来ればそれらクラブの全部の名前を挙げて、この立派なお仕事に対して感謝したいのでありますが、残念ながら時間がありませんのでごくわずかばかりの例を挙げて、御礼を述べさせていただきます。

先ず第一には、川越のクラブは、「四つのテスト」を碑に刻みこれを市の中心部に建て、又会合に於いては常に「四つのテスト」を斉唱しておられると言う事であります。更に網走クラブでは、美しい傘を町の学校に備えられ、平クラブもまた例会に於いては常に「四つのテスト」を斉唱し、北見クラブでは、「四つのテスト」のついた楯を各学校に贈っておりますと聞き、私はこれらのクラブに対してこころからの感謝の意を表します。

更にホストクラブである仙台ロータリークラブに於いては、7万枚にあまる防火ポスターの印刷配布、学校に対する「四つのテスト」ポスターの配布、更に私はこの街で美しい柳の並木寄付等に対して深く感謝いたします。

又、東京北クラブに私が出席させて頂きました時に、そこでは「四つのテスト」の歌を、皆さんで歌ってくださいました。伺いますと、これらはこのクラブの亡くなられた会員がこの歌を作られたそうで、その未亡人がピアノを弾いて下さいました。

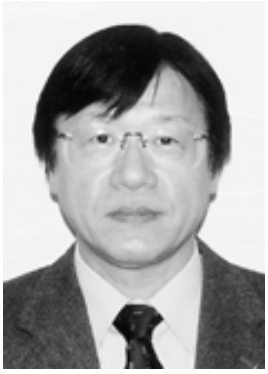
更に私は、偉大なる東京ロータリークラブ、日本における最初のロータリークラブに対して感謝の意を表したいと思います。それは、あの立派な奨学金制度のことであります。私は、その奨学金によって日本に勉学に来られた二人の青年にも会いましたが、この立派なお仕事に対し、深く感謝いたします。

以上は、1956-57年度の第60区年次大会報告よりの抜粋ですが、この二つの地区大会決議で、「ロータリーの国際奉仕として最も相応しい企てであって、その連続性が望ましい。財団法人として全国的な組織となすべき事を此処に決議する」とされております。

1957年全国組織「ロータリー米山奨学委員会」が組織され、初代委員長にはRI理事に就任したばかりの小林雅一氏が就任されました。そして西日本のクラブに呼びかけられたのであります。

その後1959年には世話クラブ制度が設置され更に1971年にはカウンセラー制度がスタートし、現在の素晴らしい奨学金制度の骨格が出来上がりました。

そして2004年11月のRI理事会決議として「奨学生への奨学金授与を通し世界理解と平和に貢献されている財団法人ロータリー米山記念奨学会を賞賛する」と認められたのです。



家族月間に因んで

地区ロータリー家族委員会委員長
狐塚育男（栃木西 RC）

まもなく家族月間の 12月。おそらくはあるだろうと思っていた本欄への投稿依頼。やはり、ある日突然の依頼状。いざ頼まれると何を書いてよいのやら。ふと思いついたのが勤務先である病院の広報誌に、私が 1年前位に書いたことのある内容が若干「家族」と重なるのではと思いそれを一部紹介します。

「私には長く付き合っている中学時代と高校時代の同期生がいる。皆団塊の世代である。それぞれ別々の付き合いをしている訳であるが、ひとつは、小中学と長く、もうひとつは、 3年間ではあるが受験戦争で最も厳しい時代を一緒に過ごした仲間達である。学校を卒業してから十数年はそれぞれの道を歩んで来たけれど、ある日偶然何人かが集まって何かをやろうという話になって、まずは飲み会、そしてゴルフ、たまには海外遠征、高尚に句会など。そしてそれが定例となりこれを何か形にしようと会を作った。前者は“ 23OB会 ”、後者は“ 68会 ”という。名前の謂れはご想像に任せここでは省くことにする。

という具合に出来た会であるが、かれこれ二十数年と十数年が経つがいまだに飽きずに続いている。年を取って 2～ 3人になるまで多分続くだろうと思う。同世代はもちろん、他の世代からもよく続いているね、羨ましい位に仲の良い連中だなと言われることが多いのである。私自身も他に自慢の出来るいい友だと思っている。いずれ年を取ったら二つの会を一つにして楽しくやろうなんて、私は思う。何故こんなに長続きしてるんだろうか。多分、我々団塊の世代は、激烈な競争社会で五十数年間勉強で（？）社会でもまれ、はたまた家庭では中流、上流家庭を目指し頑張ってお父ちゃん！では落着く所が無く、自ずと仕事も違い、上下関係も無い気心も知れた仲間を求めたのだろう。こんなことを言うと奥さん達の立場が無いだろうが、これだけ続いていると半ば諦めているであろうと私は思っている。もう一つの理由として挙げられるのは、この仲間に強いリーダーシップを持った者がいて、その者が強いけれど出しゃばらず、言いたいことは言わせておき、まとめる時はしっかりまとめてしまうという人格であったこと。そして事ある毎にそれをしっかりと伝える伝達網の存在である。こんな会、こんな友人であるが実に楽しく、面白い人達である。皆さんもこんな会を作ってみてはどうだろう。最初は面倒であろうが、年を取って初めて良かったと思うに違いないでしょう。…初心忘るべからず、継続は力なり。私の好きな言葉だ。」

このような私的なことを書いてみたのですが、何故これを紹介したかと言いますと、こんな会、ロータリーと比べたらちっぽけな組織ですが、二十数年も続いているということ、その中に書いたように仲間意識の強さ、伝達することの重要さです。ロータリーの組織の運営、各種の行事等を見てきましたが、目上の人を敬う心は勿論のことですが、まだまだ上下関係という観点からするとその壁が高く、皆仲間、の意識は少し外れているのではないかと感じるのは私だけでしょうか。また、ロータリー活動を十分に家族へ伝えているか、理解して頂けるよう努力しているかということです。過日の当委員会のアンケート集計結果を見ると、各クラブ色々と工夫をして家族の参加を促しているようですが、まだまだ家族の参加人数は少ないようです。退会者が多い中で、如何に会員増強を図るか、当委員会のロータリーで果たす役割は極めて重要ではないかと思います。このようなことを書いて、積極的な活動をしている方に失礼ではないかと思いましたが、会員数の減少は活動を継続させていく上で重大な課題であり、また、仲間意識を高めもっと楽しいクラブライフを送りたいが為あえて書いてみました。

第32回ＲＹＬＡ（青少年指導者養成）セミナー報告

RYLA委員長
中 田 英 昭（葛生 RC）

秋晴れの 3連休にもかかわらず、第 32回 RYLAセミナーを開催いたしましたところ、県内各地から数多くの皆様にご参加いただき無事成功裡に終了しました事、大変ありがたく感謝申し上げます。資金を提供していただきました全てのロータリアンの皆さん、参加者を派遣してくれたロータリークラブ各位、青少年育成に思いを寄せてくれた皆様方特に、米山奨学生やローターアクト関係の会員、社員等を参加させていただいた社長さん、本当にありがとうございました。昨年に引き続き宿泊参加して頂いた、羽石ガバナーをはじめ上野・斎藤・高橋・柿沼ガバナー補佐、岡川ローターアクト委員長、そして RYLA委員会のメンバーのご協力、大変力強く感じ感謝いたしております。

開催日は 11月 1日から 3日の 3日間、今回から会場を変更して、自然豊かな佐野市・あきやま学寮にて、今までのグループエンカウンターに加え、そば打ち体験やネイチャーゲームを取り入れました。講師は栃木県教育研究所の丸山隆先生にお願いし、受講生の「振り返り体験」時には、迫真の演技で絶大な効果をあげる事ができ、後日受講生からのメールでは「参加したことで、親子の関係も見直すキッカケとなり、これからの人生や農業にガンバリたい」と嬉しい内容の知らせも受け、スタッフのひとりとして感激いたしました。

受講生のひとりひとりが、どの様に感じ変わったのかは、感想文集を読んでいただき、会員それぞれに感じて貰えれば幸いです。

セミナーは開講式終了後、丸山先生の指導の下、セッションから始まりました。受講参加者は、ゲームやロールプレイで、限られた時間の中多くの人と相対し、 7人グループや 2人だったり 3人だったりと、初対面同士で協力していくなかで、ジャンケン列車をしたり、話しをしたり手を結んだりと、他者受容・信頼感・役割遂行を体験するうちに、相手を個人として受け入れることが出来る様になり、いつの間にか自分をもさらけ出し、あたかも旧知の仲でいたかのような関係が築けた様です。受講生からは「大学では学べなかった人間関係に、新しい自分を見つけることが出来てよかった。」とか、「以前より他人を思いやる気持ちの大切さが解かる様になった。」とか「他国の人と同世代同士のコミュニケーションにより、自分の世界観が大きく変わりました」など、この経験が「将来自分の人生に大いに役立つはずだ」と結ばれていることは、このセミナーに参加した者のみに理解できる共通の感情だと知らされました。

この RYLAセミナーが今後も引き続き、多くのリーダーシップを身に付けた青少年たちが社会に出て活躍する姿を夢見るとともに、 2550地区内全てのロータリークラブが青少年育成の為、受講参加が協力いただける様に全てのロータリアンのご理解をお願いいたします。ありがとうございました。

平成20年度ロータリー米山記念奨学会 北関東学友会栃木支部総会報告

地区米山学友委員長
恩 田 光 憲（宇都宮西 RC）

今年度の総会が研修旅行を兼ねて、10月 12日（日）から 13日（月）の体育の日の二連休を利用し、福島県の高湯温泉にて開催されました。

参加者はロータリアンなどの総勢 34名で、新型の大型バスが丁度一杯となる人数です。

二日とも素晴らしい快晴で、少し早めでしたが山々の紅葉を見ながらの楽しい旅行となりました。

このところ数年、益子・茂木方面、黒羽方面、足利方面と栃木県内での開催が続いていましたので、県外方面への希望が多く、この計画となりました。

12日は朝宇都宮駅東口に集合し出発し、西那須野駅経由で、まず大内宿へと向かいました。好天の三連休でもあり、行楽地は混雑することは予想していましたが、特に大内宿あたりの道の渋滞がひどく、だいぶ遅れての到着となりました。茅葺の町並みは、まるで都会の町のような混雑でした。名物の三澤屋の葱で食べる高遠そば、栃餅の昼食で、疲れが少し癒されました。渋滞の遅れのため、仕方なくいくつかの予定の省略をして、裏磐梯ゴールドラインに入り、夕日を浴びた磐梯山の紅葉や、山からの猪苗代湖の絶景を楽しみながら、また暗くなった山道を越え、何とか 7時に宿泊地の高湯温泉に到着しました。

ホテル到着後直ちに今年度の総会が開催されました。長年、会長を務められた、李源珠さんが勇退され、第四代の新会長に、宇都宮大学工学部准教授の金俊豪さんが選出されました。李源珠さんは理事として残っていただけることになったので、これからも相談役として活躍して下さるものと思います。その他数名の理事、監事が留任または新任で選ばれました。李さん、長年の会長職、ご苦労様でした。

その後は懇談会となりましたが、今年は、他の地区で奨学金を受け取られていた学友が入会し、この会にも参加された方がおり、全員が自己紹介と、近況の報告を行いました。池島地区米山委員長の池島酒造の、「池錦」が持ち込まれ、賞味させていただきました。食事後、二次会のカラオケに行った者もあり、温泉でゆっくりした者もあり、ロビーで楽しく会話をしていた者もあり、それぞれ自由に過ごしましたが、バスでの長旅であったので、皆、早めに休んだようでした。

二日目の朝も快晴で、昨日の疲れはなく、すがすがしく起床しました。皆、朝日で輝く磐梯山や、朝靄に幻想的に沈んだように見える福島盆地の福島市の景色をバックに写真を撮り、最後に集合写真を撮り、ホテルを出発しました。帰りは、東北自動車道を南下し、宇都宮に帰るコースです。丁度二本松の菊人形の開催時期で見学。今年は NHKの大河ドラマの篤姫が人気のようで、第一のテーマとして取り上げられ、篤姫の生涯が菊人形で表現されていました。そのほか、独眼流正宗、新撰組の菊人形絵巻、二本松少年隊の菊人形歌舞伎の上演がありました。

次の二本松市の和紙伝承館では、和紙漉き体験ではがきを作りました。うまく出来た者、出来なかった者など色々でしたが、殆どが初めての体験でした。

最後に、本宮のアサヒビール工場を見学しました。ジンギスカンの昼食後、休日でしたが工場は動いていて、ビールが出来るまでの行程を、説明を受けながら見学することが出来ました。最後の試飲では、勧められた黒ビールとのハーフアンドハーフが美味しかったようです。

結構ハードなスケジュールでしたが、帰りはひどい渋滞もなく、全員元気に宇都宮に到着、解散となりました。

今回の総会は新会長が選出され、学友、家族、ロータリアンの親睦が深められた、有意義なものでした。

第6グループ　ＩＭ開催報告書

第6グループガバナー補佐
平 野 正 之（栃木西 RC）

我が第 6グループは壬生ロータリークラブ主管の下、総勢 126人参加の下盛大に開催された。

最初、 10時より落合パストガバナーの講師の下 3年未満の新人教育が行われ多数の新人が参加し、小生も講義を拝聴した。

改めて 40数年前を思い起こし感慨深いものを感じ、ロータリーを見直す機会となり、意義深い時間となった。

参考文献として、ロータリー随想　2650地区ロータリー情報マニアル 2007を推薦された。

本日の講演者獨協大学看護学部　地域看護科講師　宮本　和子様と色々な話題を話しながら昼食をとり、午後の Meetingを迎えた。

宮本先生は数度にわたりカンボジヤに渡り、現地の衛生管理指導をしたり伝染病の予防教育を実行して活躍をなさっておられる方で、其の様子をパワーポイントで説明を戴きながら講演を受けたが、大変考えさせられ、我々にも何か出来ないかとの気持ちにさせられた。

1時間が大変短く感じ有意義な講演会であった。

ローターアクトを育てたい
～第36回ローターアクト年次大会報告～

05-08地区ローターアクト委員長
小 林 正 明（宇都宮東RO）

曇天の中、県南有数の花の名所である、あしかがフラワーパーク内のレストランに於いて上岡地区ローターアクト幹事による開会宣言と、鎌田地区代表の点鐘で当地区第36回ローターアクト年次大会は始まりました。

ロータリー・クラブの地区大会に相当する本大会ですが、ロータリアンが想像する以上に質素で堅実なものです。しかし、ホストクラブである、足利東ローターアクト・クラブ（以下RAC）を提唱する足利東ロータリークラブより板橋敏雄元ＲＩ理事、大竹義夫地区新世代カウンセラー・パストガバナー、板橋博第8グループガバナー補佐、そして地区委員会より、川名悟地区新世代プロジェクト委員長、岡川光佑地区インターアクト委員長（次年度地区ローターアクト委員長）、中田英昭地区ＲＹＬＡ委員長、更に当地区以外のローターアクターの参加をも得て、和やかに進められました。

板橋元ＲＩ理事からは、「ロータリーがローターアクトを通して目指すもの」、前の地区ローターアクト委員長でもある板橋ガバナー補佐より委員長時代の思い出、その中でも「若い人たちと一緒に体を動かし、汗を流して奉仕をする事が強く心に残っている」との祝辞を戴きました。また、大竹カウンセラー、川名委員長からもローターアクトに強く期待する旨の祝辞がありました。

続いて、地区内各ＲＡＣから、主な活動の報告があり、足利東ＲＡＣは、フィリピンへのＷＣＳ共同参加、一年交換学生・米山奨学生とともに行うそば打ち例会、宇都宮東ＲＡＣはおよそ1年半継続している元米山奨学生によるカンボジア語講座、報告をした会長は、流暢なカンボジア語で自己紹介と講座の説明を行い、会場を驚かせました。鹿沼ＲＡＣからは、創立以来続く花火大会の翌朝の河原清掃や、盲導犬センターへの実践的奉仕作業の紹介がありました。また、今大会のおよそ1ヶ月前に行われた15周年記念式典への参加御礼を述べました。当地区は鹿沼ＲＡＣが最も新しいローターアクト・クラブですので、実に15年の間、新らしいＲＡＣが設立されていない事になります。

ここで、一旦建物の外で記念撮影を行いました。時期的に、有名な藤棚は見頃ではありませんでしたが、緑豊かなパークを背景に貴重な一枚をカメラに収める事が出来たと思います。

休憩のあとは、いよいよ記念事業の「ハンドベルコンサート」です。

白鴎大学足利中学校ハンドベル部の皆さんによる演奏は、通常の編成の半数で行われているとは思えないほど見事で、曲間では盛大な拍手が送られました。

一般来園者も、その音色に惹かれ会場の周辺に人だかりが出来たほどです。

演奏会終了後、岡川インターアクト委員長による乾杯の発声でテーブル毎にジンギスカン鍋を囲んでの昼食会が始まりました。ハンドベル部の皆さんも一緒に参加され、若い人たちは「ジンギスカン食べ放題」を十分に堪能した様でした。

食事のあとは私が総評をさせて戴きました。ローターアクトで、いろいろな経験を積んで自分の仕事に役立てていく目標を再確認するとともに、まずは、提唱ロータリー・クラブとの関係を密にして欲しい、そして、関係の強化を図ってロータリー・クラブとＲＡＣがともに発展し、ともにロータリーの目的を実現できるように努力していこうと結びました。

引き続いて松葉温子実行委員長による謝辞では、少ない人数ながらも、提唱ロータリー・クラブと連携して、年次大会の企画と執行をして戴いたご苦労が滲み出て、心に染みました。

上岡地区幹事の閉会宣言、鎌田地区代表の点鐘を以て、当地区ローターアクト年次大会のプログラム全てが終了しました。

司会を担った船渡川、大野両ホストクラブメンバー、そして、物心両面からホストクラブを支えて戴いた提唱ロータリークラブの皆様、年次大会にご参加戴いた全ての皆様に改めて感謝を致します。

曇り空からは、年次大会が終わるのを待っていたかの様に、小雨が降り出しました。

雨に濡れて鮮やかさを増した花木を見つつ帰路につきました。

（了）

2008夏期交換留学生のエッセイ

John De Witt
ジョン　デヴィット

全てのことが私がロータリーに書類を提出したことから始まり、もし受理されれば、私の旅は地球の裏側で終焉をむかえることはよくわかっていました。しかし、どんな旅になるのかは全く分からなかったのです。

最後の携帯品をバッグに入れると母と空港に向かいました。11時間のフライトの後、税関を抜けるとそこは日本でした。最初の 1週間は団体行動でした。京都やその周辺での滞在は実りあるものでしたが、外国人のバスツアーの一員のような気がしてなりませんでした。毎日楽しく過ごしましたが、周りは英語を話す人ばかりでした。過去の忌まわしい戦慄を広島で見た後、私達は栃木に入り、その晩に 3番目のホストファミリーと出会いました。食事をしながら私のへたな日本語で彼等と話をしているうちに私は本当にこの人達に歓迎されていることが分かってきました。ホテルでのその晩から私の本当の冒険が始まったのです。

ロータリーの会合で最初のホストファミリーの石崎さんと会いました。その週は日本での本当の生活を思いっきり楽しみました。第一語が日本語で英語は次でした。毎晩、簡単で単調ではありましたがホストファミリーと話すことを心がけました。時々辞書で調べ通じあえました。その反対にアメリカの学生との日々の行動は楽でしたね。

言葉の障害をこの交換を通して感じました。

1週間が過ぎ私は次のホストファミリーである足利の黒川家に移りました。息子と娘さんが英語で助けてくれたので私の日本語はさらに磨きがかかりました。毎晩遅くまで話をし、大人達と過ごす日々は楽しかったし、とても親しみを感じました。

黒川家との別れを惜しむまもなく、次の後藤家でも温かく迎えてもらえました。毎日いろんな人と会い話しをしました。ある日、電子辞書を見に電気屋さんに連れていってもらいました。日本語を勉強するのに欲しいとズーと思っていました。後藤さんは凄く高かったのですが、私にそれを買ってくれたのでした。電子辞書のお陰でその後の家族との会話は本当にスムースになりました。 3週間の終わりに、私は言葉の障害を克服する喜びを感じ始めたのです。

日本滞在の最終的な結論は日本文化を学んだということです。このプログラムを知るずっと前から私は異文化を知りたいということで日本語を勉強していました。成田に着くまでに、私は今まで身に付けてきた日本語で会話を始めようと思っていました。そして毎日新しく知ったことや学んだことをそれに付け加えていきました。もし私が英語しかしらなかったら、滞在中これ程までにいろんな人と話ができなかったことでしょう。アメリカに帰った今でさえ、日本で私を感動させてくれた人々と通信を交わす努力をしています。私の旅は単に外国へ行ったことではなく、決して忘れることのない人々との友好を作り上げたことです。私の考え方を変えてくれたこの旅行に感謝しきれません。

Jeffrey Day
ジェフェリー　デイ

あの旅行から数ヶ月が過ぎてしまいましたが、昨日のことのように思えます。なぜなら、私の人生で最高の時であったからです。日本滞在中は信じられないような経験をしました。私は皆にこのプログラムに参加するよう呼びかけたいし、このお陰で、視野が広がったし自分自身を高めることができました。

私はこのプログラムは本当に素晴らしいということは知っていましたが、その本質までは知りませんでした。全てのことに挑戦してみようという気構えでのぞみました。全てに心を開き、とんでもないこと以外は何でもしてみようと思いました。会話や経験や感情を通して異文化について学ぶために自分自身の心を開いたのです。

最初の 1週間は素晴らしかったですが、自分が想像していたようなカルチャーショックはうけませんでした。私達は沢山のお寺を訪問しましたが、それらの美しさに心をうたれました。私はおなか一杯日本食を食べることにつとめました。そして、こうしているうちに、アメリカのメンバーともうちとけられ、益々楽しくなったのです。

そして、ホームステイが始まったことで、本当のこの旅がスタートしました。私は完璧に場違いであるという一つ一つを覚えていますし、その感覚は私の人生において愛らしくもあり全くといっていいほどユニークなものでした。温泉にはいり、浴衣を着て語り明かしたあの夜のことはすごかったです。

翌日から坂井家でのホームステイが始まりましたが、年配のご夫婦だけの家庭でしたので、最初はちょっとヘンでした。でも彼等の息子は毎晩夕食に来てくれました。私が人と人の関係を強く感じたのはこの家でした。毎晩、何時間も話をしました。電子辞書のお陰で言葉の障害もクリアできました。話題は日本の野球の話からはじまってアメリカ人の酒癖までにおよび、ついには、日本人の道徳観にまで発展してしまいました。私の人生でこんな会話は初めてでした。そこで、人はみな大きな隔たりがあると同時に驚くほど似ている点があることに気づいたのです。最も感動的な瞬間は彼等の息子さんのお嫁さんが、あなたがいなくなったら寂しいわと言った時です。それは些細なことに思われるかもしれませんが、本当に感動したのです。

他の二軒も素晴らしかったことは言うにおよびません。 2年前、私の家に日本からの交換学生を受け入れしましたが、日本では偶然にもその学生の家でお世話になることになったのです。なんという偶然なのでしょう。世界は狭いですね。

最後のステイは小林家でした。初めはなんの計画も予定されてなかったので、毎日一人で暮らすのかと心配していましたが、この家族の素晴らしさが分かった時、その心配も吹っ飛んでしまいました。写真を見ながら夜遅くまで起きていたことは楽しかった思い出の 1つです。

この旅は正に特別の機会を与えてくれました。プログラムの関係者に心から感謝します。そして、このプログラムは私の世界の見方や人とのかかわり方を変えてくれたばかりでなく、根本的に私を変えてくれました。

Sam Amirmahani
サム　アミーマハニ

初めに、この機会を与えてくださった皆さんへお礼申し上げます。このような機会はめったにあるわけではなく、特に十代の若者にとってはなおさらです。正直、日本訪問は私のこれまでの人生において最高の経験でした。家に戻ってからでさえも、「why」と問い続けています。訪日前は心が狭く今、自分が生きている世界に無頓着であったことに気づきました。以来、様々なことを学ぶことをせき立てられる思いであり、ようやく自分がどんな人間であるか知り、将来、何になりたいのかも分かった次第です。言葉や文化が分からない国にいたことは人を思慮深くするものですね。家に戻って 1週間後、いかに自分が変わったか、そしていかに違った視点から物事にとりくむようになったか気づいたのであります。この旅行から学んだ最大のことは、世界、そして、そこに住んでいる人々は皆、助け合って生きているということです。私達は力を持っています。そしてその力を助けを必要とする人々の救済に使うべきです。そして、そのことは、今までの自分では、まず気づかなかったことでした。日本は将来、自分が成長する上で忘れえぬ経験を与えてくれました。この経験を他の人々にもさせてあげたいと思っています。

日本は世界中で最も美しい国だと思いますし、多くの人々に訪れて欲しい国です。私は間違いなく近い内に、そう、桜を見に春に日本に行きます。この旅で良かったところは、多くの人達との出会いや沢山の町を訪れることができたこと、そして、素敵なホストファミリーと過ごしながら日本の素晴らしい文化に触れることができたことです。この旅行は私の人生に大きなインパクトを与えました。そして、そうさせてくれた全ての人達に心からお礼申し上げ、寛容で親切だったホストファミリーの皆様に感謝の気持ちをお伝えします。また、ビッキーさん、スコットさん、青山さん、イングルウッド・ロータリークラブ、日本のロータリークラブに感謝します。私もいつか、ロータリアンになり、あなた方が私にしてくれたことを次の若者にしてあげたいと思っています。

どうもありがとうございました。

Brandon Blumenfeld
ブランドン　ブルーメンフェルド

日本で過ごした夏は今でも私の最も思い出深い夏のひとつです。それは今まで過ごした夏のなかでも本当に驚きと興味深さと特異さでいっぱいでした。最初から最後まで素晴らしく友好も深めることができました。そして、それぞれの週で変わった経験をすることができました。

最初の一週間は楽しい旅でした。京都に滞在しいろんなものを見て歩き素晴らしい時を過ごしました。息も詰まる様な寺院や神社、そして美術館や公園を見ました。広島は綺麗な町でしたが平和公園では人生観が変わりました。そして、いよいよ栃木での楽しみが始まったのです。ミーティングの後、私達は日本の公衆浴場を経験し、浴衣を着てパーティーにのぞみ、そこで三番目のホストファミリーと会いました。

翌日に第一ホストファミリーでの生活が始まりました。彼等が気を使ってくれたので彼等とのステイを楽しむことができました。英語を話せる人を用意してくれたり自分が慣れ親しんでいる食べ物を与えてくれました。しかし、ホームステイに慣れていないせいか、少し疲れていたので、よく読書をしていました。でも大変よい経験をしたと思っています。

次の週も楽しかったです。ジョンとは家が近くホストファミリー同士が仲良しでした。それで毎晩一緒に食事をしたりビデオゲームをしたりして楽しい時を過ごしました。書道も学びましたし市長さんともお会いしました。それから、ジョンのホストファーザーが僕達を一日東京へ連れて行ってくれました。

最後の週もよかったです。僕はサムと同じ家庭にステイしたので尚更でした。また、ジョンも同じ町にステイしたのでしょちゅう会うことができました。佐野は東京までバス一本でいけるので僕はサムとジョンと一日東京へ出掛けました。東京の交通機関は非常に使い易く清潔で安全でした。また、僕達は露天風呂にも連れていってもらいました。お湯は凄く熱かったですが、リラックスしたいい一日を過ごせました。

この旅は楽しさでいっぱいでした。そして、もう一度しても、きっと同じような感動をするだろうと思います。ただ、東京にも滞在してみたかったと思います。関係した皆さんに感謝しています。

Erin Everett
エリン　エヴェレット

私は長い間、日本文化に興味を抱いていましたので、日本とその文化を経験する機会が得られたことに大変感動しました。スタートから驚きの連続でした。短い間でしたが、金閣寺など沢山の神社を訪れ非常に勉強になりました。また、奈良の大仏や鹿公園の人と自然が一体となった感じがとてもよかったです。それから Miho Museumもよかったです。建物と自然の調和が最高でした。広島訪問ではショックを受け、人生の見方がかわりました。栃木での最初の夜はナタリーや日本の学生とロスでの行動計画を夜遅くまで話をしてしまいました。

最初のホストファミリーは大山さんでした。皆さんとても親切でトランプのばばぬきは面白かったですね。フリーの日にはジョンと一緒に東京へ連れて行ってもらいました。東京は初めてだったのですが、なかでも秋葉原と原宿は気に入りました。あんなに沢山の電気屋さんは見たことありませんでした。日光へも行きました。また、ディズニーシィーもよかったです。カリフォルニアのそれとは違っていましたけど。1週間楽しかったです。まるで自分の家にいるみたいにリラックスできました。

二番目のホストも素敵でした。ホストファーザーもマザーも英語を話し息子二人と娘さんがいました。彼等は足利の街中に住んでいて自転車であちこち見て歩きました。また、足利の市長さんにも会えてよかったです。滞在中、私達のグループと日本の ROTEXとで東京へ行ったことも本当に楽しかったです。

三番目のファミリーも素敵でした。彼等は宇都宮に住んでいて娘さんが二人いました。その一人がゆいで一緒にロスに戻りました。彼女の友達をよんでバーベキューを楽しみましたが、日本の 10代とアメリカの 10代の類似点や異なったことが分かりよかったと思います。彼等も又、私を東京へ連れて行ってくれましたが、皇居をはじめ未だ見ていない文化施設を見学できて参考になりました。

この旅は私にとって教育的な経験であり素晴らしかったです。ただもう少しグループとして活動できるプランがあればもっと良かったかなとも思います。ですがホストファミリーとも楽しく生活でき、日本文化も理解できるようになりました。皆さんに感謝しています。

Natalie Hession
ナタリー　ヘシオン

Japan Exchange 2008

日本訪問は一生忘れられないでしょう。あまりにも沢山の素晴らしい経験がありすぎて全てを語ることができません。あれほど歓迎されるとは夢にも思わなかったことです。最初の一週間はまったく日本の文化が分かりませんでした。でも MIHO Museumは良かったです。また、広島原爆記念館はその中でも最も重要な訪問でした。

次の 3週間はワクワクするほど楽しい滞在でした。第一ホストファミリーの山崎さんはとても親切でした。初めは旨く会話が出来ませんでしたが辞書やコンピューターを使うことで何とかなり、日本の食べ物やテレビ番組について学ぶことができました。また、筑波にある綺麗な寺院へも連れていってくれました。

足利での次の週も素敵でした。ホストの志賀夫妻の大歓迎を受けました。初日に神社の祭に行き、おみこしをかついだ女子は私一人だけでした。その後、有名なオリンピック馬での乗馬を楽しみました。彼等は常に私を気遣ってくれ、有難く思いました。焼肉は美味しかったですね。また、滞在中、東京まで歌舞伎を観に連れていってもらい、忘れ難い思い出であり、学校での演劇の勉強に大変役立っています。

菊地家も大変親切でした。菊地姉妹は多くの友達に私を紹介してくれて小山市内のあちこちに連れて行ってくれました。ホストマザーは浴衣の着方を教えてくれたり、お茶会に案内してくれ、お茶会がどんなものであるか分かりました。また菊地家は前回のとは別の歌舞伎や美術館に東京まで連れていってくれ、宮崎駿の作品を見ることができました。美生（みお）たちとカラオケに行ったり遊びを通して日本の十代とアメリカの十代の学生の共通点や違いを発見することは大変勉強になりました。彼女とはこれからも繋がりをもっていきたいと思っています。

私は日本を経験して自分は謙虚な気持ちになれましたし、日本古来の文化や伝統、そして現代の科学技術も学ぶことができました。日本に三軒のセカンドハウスももてました。最初はホストファミリーとこんなに親しくなれるとは夢にも思いませんでしたが、アメリカに戻って、彼等をとても身近に感じています。このプログラムは私の知識や成長を促す大きな一歩でした。来年は大学に進学しますが、この経験を大いに生かしたいし、少し前に日本についての小論文を大学に提出しました。ホストしてくれた、山崎、志賀、菊地家に感謝します。松葉さん、青山さん、ありがとう。決して皆さんのことは忘れません。ビッキーさん、スコットさん、そしてロータリーの交換プログラム、これらに何て言ってお礼したらよいか分かりません。私は一生忘れられない旅をしました。

公式訪問だより

西那須野ロータリークラブ 公式訪問

■ 10月 7日（火曜日）
■ 会場：割烹いとう

第 1グループガバナー補佐
塩 川 美 好

第 1グループ 3回目の公式訪問が「割烹いとう」において行われました。氷見会長、澤田副会長、中里幹事、佐藤奉仕クラブ委員長、室井情報委員長、郡司副幹事の出迎えを受け、会場へ 10時 20分到着、即玄関前で記念撮影、休憩後会長・幹事との懇談会、懇談会にはガバナー随行員 2名も参加し総勢 10名で行われました。

氷見会長より挨拶をかねて会務報告書に基づきクラブの概況等について報告があり、特に CLP導入 3年目を迎え、クラブ運営についていろいろと課題があるが、今後課題解決のため更に検討を加え、会員一同クラブ活性化へ向けて努力していきたいと力強い話がありました。

羽石ガバナーからは会務報告書の内容について 2・3の指摘を受けるも、 8月中に完成し立派な報告書であり、毎週の会報等についても規則正しく事務所へ送られしかも内容的に充実しており、クラブの活性化を図ることにも大きく役立っていると思います。今後のクラブの発展を期待します。

午後は、通常例会を 30分延長し、その中にガバナーの記念卓話、通常とおり幹事報告、委員会報告、会長の時間、そして羽石ガバナーの記念卓話、卓話は「RIのテーマ或いは RIの活動、ガバナーの方針等」理解して頂くため、パワーポイントを使い視覚をとおしてわかり易く約 45分にわたっての卓話でした。

最後に西那須野クラブは奉仕プロジェクト面でも（米山記念奨学生の受入、姉妹・友好クラブの維持、アジア学院との交流、歩行専用道路清掃、青少年健全育成等々への支援活動）活発に活動を推進されており、地区内でも模範的なクラブであるとのことでした。

例会終了後全員で記念撮影、お疲れ様でした。

黒磯ロータリークラブ 公式訪問

■ 10月 15日（水曜日）
■ 会場：割烹　石山

第 1グループガバナー補佐
塩 川 美 好

第 1グループの公式訪問も 5回目を迎え、「割烹石山」において行われました。田中会長、半田パストガバナー、高木副会長、澤田幹事、時庭会長エレクト、月井国際奉仕クラブ委員長の出迎えを受け、会場へ 10時 10分到着、即玄関前で記念撮影、休憩後 10時 30分より約 1時間、会長・幹事との懇談会、懇談会にはガバナー随行員（菊池・桜井両会員）も参加し総勢 10名で開催されました。

田中会長より挨拶をかねて現況報告書に基づきクラブの概況等について報告があり、特に本年度の目標の一つ「水保全」ついて、那珂川の上流に既存の産業廃棄物処理施設、あるいは今後予定されているこれらの施設について関心を持ち、地元地域社会と一緒になって水保全に努めている。

羽石ガバナーからは現況報告書の内容について 2・3の指導助言を受ける。なお、当クラブはデジタル化が

進んでおり、今後 100%に向けてさらに努力することが、クラブの活性化を図ることにも繋がると思います。
午後は、会員の拍手に迎えられ例会場へ、通常例会を 30分延長し、その中にガバナーの記念卓話、通常とおり幹事報告、委員会報告、会長の時間、そして羽石ガバナーの記念卓話、内容は「RIのテーマ或は RIの活動、ガバナーの方針等」でありますが、RIと地区との関係、会員維持と増強、ポリオ撲滅、ポール・ハリスの原点と出発、超我の奉仕とは、ロータリーは人生哲学、四つのテスト、ロータリーの本願は等々」を理解して頂くため、パワーポイントを使い映像をとおしてわかり易く約 45分にわたっての卓話でした。
時間的に眠い時間帯であったが、各々眼に気合を入れながら耳を傾け、視覚、聴覚が最大限に働いた 45分でした。
最後に黒磯クラブは会長の方針でもある、「慈愛に満ちた優しい親子」と感じる世界が来ることを願って、小さな努力を積み重ねて・・・・。クラブのますますの発展の祈念いたします。
終ってスタジオで記念撮影、ご苦労様でした。

烏山・高根沢ロータリークラブ公式訪問

■ 10月 22日（水曜日）
■ 会場：東雲ゴルフクラブ

第 2グループガバナー補佐
斎藤　友紀雄

「ターミナル駅とは、列車の起点・終点となる鉄道駅のことである」とウイキペディアに書いてある。ターミナル駅ですねなどと言われると赤面しそうな現状ではあるが、烏山線の両端に烏山と高根沢のロータリークラブはある。今回は両クラブ合同の公式訪問である。往時が偲ばれるいっぱいになった例会場を前に、両会長の胸に去来した感慨は想像に難しくはない。
今回はガバナーの方針で会長幹事会も合同である。以前氏家クラブと合同の際は、別々であった。合同はいいものである。ガバナーの指摘を一方のクラブがクリアしていれば例を元に学べば良い。負けたようで改善の意欲がわくし、出来ていて褒められるのも良いものである。合同は親子関係が無いクラブ同士であることがポイントのような気がする。
歴史に差はあっても同じグループ内の学徒のごとく、切磋琢磨の気概が生じるからである。
さてガバナー卓話である。予め、決議 23・34について詳しく知りたい旨質問があったことから、特に時間を割いて説明していただいた。
決議の内容はもとより、それが何故議論を呼ぶのかとの背景を解説していただいたことから、両クラブメンバーとも得心がいったようだ。
その後の質疑応答では、小クラブへの配慮を申し送りしたいとの話もあり 10人台の両クラブには朗報になった。
さて順調に終了した合同公式訪問であったが、それゆえに合同が慣例化しないかが心配である。いいことずくめでも、失ったものは盆に戻らなくなって気がつくものだからだ。

宇都宮90ロータリークラブ公式訪問

■ 11月10日（月曜日）
■ 会場：宇都宮東武ホテルグランデ

第3グループ（A） ガバナー補佐
高 橋 和 夫

2008～09年度がスタートして4ヶ月が過ぎ、RIテーマのもと、地区及びクラブ目標達成のために活発なクラブ活動の中、11月10日、宇都宮90ロータリークラブは、羽石ガバナー公式訪問が午前10時30分より、鈴木章央会長、君塚孝幹事、保坂正裕会長エレクト同席のもと宇都宮東武ホテルグランデに於いて懇談会が行われ、鈴木会長よりクラブの現況及び活動方針等について説明を受け、羽石ガバナーよりクラブ活性化及び効果的なクラブ運営についてのご指導があり、中身のある意見交換も出来ました。また、12時30分より通常例会の中で、羽石ガバナーより、ロータリーの基本的な事項及び活動方針等についての卓話を頂き、大へん有意義な公式訪問であったと思います。クラブの皆様のご協力に感謝申し上げ、報告と致します。

宇都宮西ロータリークラブ公式訪問

■ 11月13日（木曜日）
■ 会場：宇都宮東武ホテルグランデ

第3グループ（A） ガバナー補佐
高 橋 和 夫

羽石年度上半期後半の時期となり、宇都宮西ロータリークラブも、各委員会共に積極的かつ活発なクラブ活動が推進され、多忙な11月に入り11月13日（木）宇都宮東武ホテルグランデに於いて、羽石ガバナー公式訪問が実施されました。午前10時30分より、北村長榮会長、谷中一成幹事、里村佳行副会長、柿沼賢情報委員長同席のもと、より効果的なクラブ運営を図るために活発な発言と積極的な意見が出され、これに対し、羽石光臣ガバナーより的確なご指導・ご助言を頂き、中身のある懇談会となりました。また、例会では、羽石ガバナーよりロータリー全般に亘る考え方、活動方針を中心に卓話を頂き、大勢の会員参加のもと、内容のあるガバナー公式訪問となりました。会員各位のご協力に感謝申し上げ、報告と致します。

第2550地区 新入会員

橋本利一（はしもと りいち）

（小山北 RC）

ちとせ観光バス株式会社 代表取締役

入会年月日 平成 20年 9月 3日

ひとこと 体験する事の考えで入会しました。よろしくお願いします。

栗原勉（くりはら つとむ）

（小山南 RC）

（有）栗原電機 代表取締役

入会年月日 平成 20年 10月 1日

ひとこと 先輩の皆様のお教えを請いながら、微力ながら活動させていきたいと思います。

室井次男（むろい つぎお）

（黒磯 RC）

園芸

入会年月日 平成 20年 10月 1日

ひとこと 先輩諸兄姉の指導助言を得て、地域社会に貢献できるよう心がけます。

髙山裕喜（たかやま ひろき）

（宇都宮 RC）

関東ビルサービス(株) 代表取締役

入会年月日 平成 20年 10月 21日

丹野洋（たんの ひろし）

（黒羽 RC）

有限会社アスター 取締役

入会年月日 平成 20年 11月 1日

ひとこと 敷居の高い当クラブに入れて光栄ですが緊張しています。よろしくお願いします。

芳賀清多（はが せいた）

（宇都宮陽南 RC）

（株）エコシス 代表取締役

入会年月日 平成 20年 11月 6日

ひとこと 感動と共感の心で、皆様と協調し行動します。

物故会員

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

岡田靖（おかだ やすし）

享年 70歳

（日光 RC）

物故 平成 20年 8月 17日

■ロータリー歴

2002～ 2003
日光ロータリークラブ会長

■財団、米山記念奨学会などの寄付歴

2006 ポール・ハリス・フェロー
2002 ベネファクター
2005 米山功労者

小林弘（こばやし ひろし）

享年 65歳

（足利 RC）

物故 平成 20年 10月 22日

■ロータリー歴

2007～ 2008
クラブ内職業奉仕委員長(理事)

文庫通信 254号

「ロータリー文庫」は日本ロータリー 50周年記念事業の一つとして 1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、2万余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページで PDFもご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

地区大会記念講演から

■「私の考える経営」 伊藤謙介　2008　8p（D.2690）

■「構造改革とこれからの日本経済」 竹中平蔵　2008　8p（D.2660）

■「日本のこれから、日本人のこれから」 藤原正彦　2008　8p（D.2580）

■「津波が変えた私の人生」 道下俊一　2008　10p（D.2780）

■「命を地域で支えるあたたかな人と人とのつながりをつくろう」 鎌田　寛　2007　15p（D.2550）

■「未知への挑戦～箱根駅伝・アテネオリンピックなどを振り返り」 澤木啓祐　2008　13p（D.2510）

■「メジャーリーグに学ぶ経営戦略～日本人の知らないメジャーの常識と人づくり」
タック　川本　2008　20p（D.2790）

■「薩摩の郷中教育と菩薩焼」 西郷隆文　2008　16p（D.2690）

〔上記申込先：ロータリー文庫（コピー／PDF）〕

■「ロータリーモザイク」ハロルド Ｔ．トーマス著　松本兼二郎訳　2006　329p

50年間のロータリーライフに基づき、一人のロータリアン（元 RI会長）が綴った 1905～ 1970年までのロータリーの思想・方針とプログラム、そしてロータリアンのそれぞれの進化の物語です。彼は「ロータリーはロータリアンすべての参加によって初めて出来たものである」と述べています。本書を一読することにより、全てのロータリアンに与えられているロータリー運動への参加の機会と可能性と期待とがはっきり認識できるでしょう。

〔申込先：ロータリー文庫　領価1500円〕

【 ロータリー文庫 】

〒105-0011　東京都港区芝公園 2-6-15　黒龍芝公園ビル 3F

TEL（03）3433-6456　FAX（03）3459-7506【 http://www.rotary-bunko.gr.jp】

開館 ＝ 午前 10時～午後 5時　／　休館 ＝ 土・日・祝祭日

【 国際ロータリー第2550地区　10月会員増強・出席報告 】

区分	クラブ名		出席率		会員数							
		例回数	今月	平均	7月1日	今月	入会	退会	通算増	通算減	増減	内女性会員
第1グループ	大田原	5	84.34	85.60	44	44	0	0	0	0	0	2
	黒磯	4	98.00	99.50	45	46	1	0	1	0	1	2
	西那須野	4	96.61	96.88	48	47	0	0	1	2	－1	0
	黒羽	5	96.47	96.18	17	17	0	0	0	0	0	1
	那須	5	76.19	76.88	18	21	1	1	4	1	3	2
	塩原	5	80.00	82.50	10	10	0	0	0	0	0	0
	大田原中央	5	71.00	73.40	20	20	0	1	1	1	0	1
第2グループ	烏山	4	85.93	84.14	17	16	0	0	0	1	－1	1
	氏家	5	84.28	80.22	32	32	0	0	0	0	0	0
	矢板	4	91.04	89.25	32	32	0	0	0	0	0	5
	馬頭小川	4	85.20	88.03	21	22	1	0	1	0	1	0
	高根沢	4	83.33	82.06	19	18	0	0	0	1	－1	0
第3グループA	宇都宮	3	70.40	73.45	94	100	4	0	8	2	6	0
	宇都宮西	5	93.69	88.44	61	63	0	0	2	0	2	0
	宇都宮北	4	70.27	74.50	57	56	0	1	0	1	－1	0
	宇都宮90	3	78.90	83.87	38	38	0	0	0	0	0	4
	宇都宮陽北	4	89.30	89.18	35	37	0	0	3	1	2	5
第3グループB	宇都宮東	4	95.48	94.83	98	101	0	1	4	1	3	0
	宇都宮南	5	75.74	72.95	56	57	0	0	1	0	1	0
	宇都宮陽東	4	72.80	74.45	44	46	0	0	2	0	2	1
	宇都宮陽南	4	76.04	76.95	18	24	0	0	6	0	6	4
第4グループ	真岡	5	93.38	93.48	51	52	0	0	1	0	1	0
	益子	4	93.00	90.35	34	34	0	0	0	0	0	0
	真岡西	4	97.16	96.14	47	47	0	0	0	0	0	10
	しもつけ	5	85.76	91.00	31	31	0	0	0	0	0	8
第5グループ	小山	4	87.50	90.15	47	48	0	0	2	1	1	0
	小山南	4	100.00	99.31	18	19	1	0	1	0	1	2
	小山東	5	91.67	93.77	35	36	0	0	1	0	1	0
	小山北	5	75.20	80.20	25	27	0	0	2	0	2	0
	小山中央	4	96.00	76.65	24	24	0	0	0	0	0	1
第6グループ	栃木	5	79.20	81.63	48	48	0	0	0	0	0	0
	栃木西	4	85.65	83.61	42	42	0	0	0	0	0	0
	壬生	5	80.00	81.75	21	21	0	0	0	0	0	2
	栃木南	4	94.00	92.33	34	34	0	0	0	0	0	5
第7グループ	日光	5	81.82	81.02	28	27	0	0	0	1	－1	5
	鹿沼	5	91.23	93.41	72	73	0	0	1	0	1	1
	今市	4	91.27	91.48	43	43	0	0	1	1	0	0
	鹿沼東	5	97.73	95.79	44	43	0	0	0	1	－1	2
	粟野西方	5	81.38	90.37	14	14	0	0	0	0	0	1
	鹿沼中央	4	68.52	75.15	27	28	0	0	1	0	1	2
	今市きぬ	4	95.00	94.15	28	30	0	0	2	0	2	1
第8グループ	足利	4	68.89	73.25	46	49	0	0	3	0	3	0
	足利東	3	69.33	73.85	58	58	0	0	0	0	0	8
	足利西	5	73.20	74.85	14	14	0	0	0	0	0	0
	足利わたらせ	5	95.00	98.17	32	33	0	0	1	0	1	0
第9グループ	佐野	3	87.64	88.67	53	56	1	0	3	0	3	0
	葛生	4	92.90	92.85	39	39	0	0	0	0	0	0
	田沼	5	85.29	91.17	34	35	0	0	1	0	1	0
	佐野東	5	76.09	80.17	23	23	0	0	0	0	0	0
	岩舟	4	88.60	87.90	25	24	0	1	0	1	－1	1
	50RC		85.15	85.92	1861	1899	9	5	54	16	38	77